

宇野病院 院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル

1. 事前準備

- ① 病院より、処方箋における問い合わせ簡素化プロトコルについての説明を受け、「宇野病院 院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル合意書」を取り交わしてください。
- ② 変更内容を記載しFAXにて送信する方法を確認してください。

2. 手順

「宇野病院 処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル合意書」を取り交わした保険薬局において本プロトコルを実施する際は、下に記載の 3. 問い合わせ不要の項目 1)から 13)に該当するものについて以下の手順をとってください。

- ① 患者に十分な説明を行い、同意を得てください。特に金額や服用方法の変更が発生する場合については十分に説明の上、同意を得てください。
- ② 問い合わせを簡素化し、処方内容を変更して処方箋調剤を実施してください。
- ③ 処方箋調剤後、処方箋の変更内容について、その日のうちに書式にて宇野病院へ FAXにて報告してください。(独自のものでも可)ただし、電子処方箋の場合は報告は不要です。

3. 問い合わせの不要の項目(ただし、麻薬・抗腫瘍剤は除く)

1) 成分名が同一の銘柄変更 (ただし変更不可の処方除く)

例 1: ボナロン錠 35mg → フオサマック錠 35mg (先発→先発)

例 2: ロキソプロフェン錠 60mg「EMEC」→ ロキソニン錠 60mg (後発→先発)

2) 剤形の変更(薬剤の安定性や患者の利便性が同等もしくは向上する変更に限る)

例 1: アムロジン錠 5mg → アムロジンOD錠 5mg

例 2: タケキャブ OD 錠 10mg → タケキャブ錠 10mg

例 3: (粉砕)アスベリン錠 10mg 2 錠 → アスベリン散 10% 0.2g

ただし、軟膏やクリーム類の外用薬の変更は不可とします。

- 3) 別規格製剤がある場合の薬剤規格の変更(薬剤の安定性や患者の利便性が同等もしくは向上する変更に限る)

例:アーチスト錠 1.25mg 1回2錠 → アーチスト錠 2.5mg 1回1錠

用法用量が変わらない場合、適応外にならない場合のみ可能です。

- 4) 錠剤の半割や粉碎、あるいはその逆、また簡易懸濁法を行う場合の変更
(薬剤の安定性や患者の利便性が同等もしくは向上する変更に限る)

逆の場合の例:

(粉碎)チラーヂンS 50 μ g 0.25錠 → チラーヂンS 12.5 μ g 1錠

簡易懸濁法の場合の例:

バイアスピリン錠 100mg 1錠 → アスピリン原末 0.1g

薬剤の安定性や溶解性や体内動態を把握し、同等の治療効果ならびに患者の利便性が同等もしくは向上する場合に実施してください。ただし、外用薬の変更は不可とします。

- 5) 調剤報酬に関わらない「患者の希望」あるいは調剤報酬に関わらない「アドヒアランス不良で一包化によりその向上が見込まれる」の理由により実施する一包化(コメントに「一包化不可」の場合を除く)。

薬剤の安定性のデータに留意してください。

- 6) 湿布薬や軟膏での包装規格変更に関すること(合計処方量が変わらない場合)

例 1:モーラスパップ 30mg (7枚入り)×6袋

→ モーラスパップ 30mg (6枚入り)×7袋

例 2:リンデロンVG軟膏 0.12%(5g) 2本 → リンデロンVG軟膏 0.12%(10g) 1本

本来は、薬剤師の裁量にて実施できる項目ですが、変更後、医師と患者の間でこの変更によるトラブルが生じないために、調剤後に必ず変更内容を書式にてFAX送信にて報告してください。ただし、皮膚科処方外用薬に関しては、調剤前に必ず確認をしてください。

- 7) 薬剤師が残薬確認時に処方薬の残薬を把握したため、投与日数を調整(短縮)して調剤すること(外用剤の本数の変更も含む)

処方箋に「残薬調整してください」と医師が記載した場合、患者に残薬確認し投与日数を調整(短縮)して調剤すること(外用剤の本数の変更も含む)

例 1:オルメサルタン錠 20mg 30日分 → 26日分(4日分残薬があるため)

例 2:ラミシールクリーム 1%30g → ラミシールクリーム 1%20g(1本残薬があるため)

- 8) ビスホスホネート製剤の週1回あるいは月1回製剤が、連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化(処方間違いが明確な場合)

例:(他の処方薬が 14 日分処方の時)

ベネット錠 17.5mg(週1回製剤) 1錠 分 1 起床時 14 日分 → 2 日分

- 9) 「1 日おきに服用」と指示された処方薬が、連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化(処方間違いが明確な場合)

例:(他の処方薬が 30 日分処方の時)

リピトール錠 5mg 1錠 分 1 朝食後 1 日おき 30 日分 → 15 日分

- 10) 処方薬の用法の適正化(処方間違い明確な場合)

食間、食前の用法の処方薬が、食後の指示になっている場合

例 1:レパグリニド錠 0.25mg 3錠 分 3 毎食前 30 分 → 毎食直前

例 2:エパデル S900 900mg 2包 分 2 朝夕食後 → 朝夕食直後

例 3:テルビナフィン塩酸塩クリーム 1% 1日 2回 塗布 → 1日 1回 塗布

例 4:ロキソプロフェン Na テープ 50mg 1日 2回 貼付 → 1日 1回 貼付

ただし、漢方薬・ナウゼリン(ドンペリドン)錠に限り、食後での指示があった場合、医師了承済みとして取り扱い、食後のまま調剤してください。

- 11) 抗菌薬併用時の耐性乳酸菌整腸剤の変更

例: ビオフェルミン錠 → ビオフェルミン R 錠、ミヤBM錠へ変更可

- 12) 外用薬の使用部位、相当日数の追記

例 1:リンデロンVG軟膏 0.12% 5g 1日 1~2回 塗布 (部位無し)

→ リンデロンVG軟膏 0.12% 5g 1日 1~2回 塗布 前腕の赤いところ

例 2:モーラスパップ XR120mg 10cm×14 cm 7枚 5袋

1日 1回 貼付 (部位、相当日数無し)

→ モーラスパップ XR120mg 10cm×14 cm 7枚 5袋

1日 1回 貼付 腰に 35日 相当分

患者に塗布部位を確認、貼付剤の場合は 1 日使用量を確認、または他の処方薬の日数に合わせて〇日相当分と追記可

- 13) 新規採用薬に関すること

当院薬審後の採用薬切り替え時、当院からの採用情報の FAX 内容に基づいて、在庫終了後新規採用薬へ切り替え可。ただし、成分が違う薬剤に切り替え変更の場合は薬剤部へ問い合わせてください。

4. 各種問い合わせ窓口・受付時間

① 問い合わせ簡素化プロトコルについて

受付時間 平日 9 時 ～ 18 時、土曜 9 時 ～ 12 時

薬剤部 TEL:0564-24-2231(内線 130) FAX:0564-24-2232

5. 注意点

- ・必ず患者の同意を得たうえで実施してください。
- ・上記に該当しない変更を含む問い合わせは、必ず処方医へ電話にて確認を行ってください。

宇野病院 薬剤部 2025.9.1